

ユダ書序言

本書の差出人および受取人 十二使徒のうちに、キリストを敵に渡したユダのほかにもう一人ユダと言う人がいる。小ヤコボの兄弟で、イエズスのいわゆる兄弟すなわち親族の中に数えられ、タデオと言う名で知られている。彼が本書の差出人である。本書は第一節にあるように一般の信者に宛てたものか、あるいは一地方の信者に与えられたものか定めにくいだが、差出人は、ことさらに自分を小ヤコボの兄弟と断言し、なお異端者の所作をとがめるところを見ると、聖ペトロのように小アジアの諸教会のために本書をしたためたものと思われる。

本書をしたためた目的 これは本文によって明らかである。すなわち嚴重に異端者の所作をとがめ、その誤謬と風俗とを述べ、信者をこれらの危険に予防させようとの目的にほかならない。

本書の区分 冒頭(一〜四節)のち本文に移り、第一には異端者の所作を述べて、それが公然と罪とされるべきことを予言し(五〜十六節)、第二には信者に向かつて、彼らに迷わされず、確固として信仰に留まることを勧め(十七〜二十三節)、終わりにしようれい頌榮をもつて本書を結ぶ(二十四、二十五節)。本書は簡単であるが嚴重な戒めに富んで、あたかも予言者の書のように行文が精密で活気があり形容の妙みょうを備え、しかも明晰めいせきで理路の正しいものである。

本書をしたためた年代および場所 確かな証拠がなくて定めにくいだが、聖ペトロの第二書と非常によく似ていて、聖ペトロはすでにこの書を知ってこれを利用したもののようである。このこ

とから推すと、本書は紀元六六年の末以前にしたためられたものと定めないではいられない。また述べるところの異端の所作が、こうまでに及んだことから見ると、六〇年よりも早いとは思われない。それで、おそらくその中間の六四、五年のころにしたためたものであつて、場所は、あるいはエジプト、あるいはエルザレムであろうと言われるが、実際には全く考えることができない。

使徒聖ユダの書簡

冒頭

1 挨拶 1 イエズス・キリストのしもべにしてヤコボの兄弟なるユダ、父にてまします神に愛せられ、キリスト・イエズスのために保たれ、かつ召され奉りたる人々に「書簡を送る」。2 願わくは、慈悲と平安と慈愛と汝らに加わらんことを。3 至愛なる者よ、われはわれらが共同の救霊たすかりにつきて汝らに書き送らんことをせつに望み、ひとたび聖人たちによりて伝えられし信仰のために力をつくして戦わんことを勧めんとて、汝らに書き送るを必要とせり。4 そは、ある人々すなわち昔より罪に処せらるるよう予定せられたる不敬虔なる人々のくぐり入りて、わが神の恩寵を放蕩に換え、唯一ゆいいつの主宰者しゅさいしやにして、わが主にてましますイエズス・キリストを否み奉ればなり。

本文

5 天罰の例 5 汝ら、もとより何ごとをも知れりといえども、ここにわれ汝らをして思い出ださしめんとすることあり。すなわち主²、エジプトの地より民を救い出だし給いてのち、信ぜざりし人々を滅ぼし給い、6 また、おのが位くらいを保たず、おのが居所いどころを捨てたりし天使たちを、大いなる

7 日の審判のために無窮の繩目をもって暗闇のうちに閉じ給い、7 またソドマ、*ゴモラおよびその付近の町々は同じく淫乱にふけり、異なる肉身を冒したるがゆえに永遠の火の刑罰を受けてみせしめとせられしなり。

8 偽教師、天罰を招く 8 かくのごとく、かの夢想者どももまた肉身を汚し、権力を軽んじ、尊栄をののしる。9 大天使ミカエルは悪魔と論じてモイゼの屍を争いし時に、あえてののしるがごとき宣告をなさずして、願わくは主汝に命じ給わんことをと言えり。10 しかれどもこれらの人は、すべて知らざることをののしり、無知の畜類のごとく自然に知れることをもってその身を汚すなり。11 彼らは禍いなるかな、そはカインの道に行き、また報酬のためにバラアムの迷いに流れ、なおオオレの謀叛のうちには滅びたればなり。12 彼らは、はばからずして食し、おのれを飽き足らしめて汝らの愛さんにおいて汚れとなり、風に吹きやらるる水なき雲、実らずして再び枯れ、根の抜かれたる秋の末の木、13 おのが醜行を泡立たする海の荒波、暗闇が波らのために限りなく備われる惑星なり。14 アダムより七代目なるヘノクは、これらの人をもさして予言して言えらく、15 「見よ、主はその千万の聖徒を従えて来り給い、15 万民に向かいて審判をなし、すべての不敬虔なる者を、その不敬虔に行ないし不敬虔の業と、不敬虔なる罪人が神に向かい奉りて語りしすべてのの暴言とをもって責め給うべし」と。16 彼らは私欲に従いて歩み、不満をならしてつぶやく者、その口は大言を語り、利益のために人にへつらう者なり。

17 信徒に忠告す 17 至愛なる者よ、汝らはわが主イエズス・キリストの使徒たちより予言せられしことを記憶せよ。18 すなわち彼ら言えらく、末の時にはあざける人々来り、おのが望みに従い

20-19 て不敬虔の業わざのうち歩まん、と。19 彼らは自ら分裂して肉欲に従い靈を有せざる者なり。20 至愛なる者よ、汝らが至聖なる信仰の上におのれを建て、聖靈によりて祈り、21 おのれを神の愛のうち守り、永遠の生命を得んためにわが主イエズス・キリストの御慈悲を待て。

23-22 異説者いせつしやに対する法 22 汝ら彼らの中のある者、すなわち真偽しんぎを争える人々を承服せしめ、23 ある者を火より取り出だして救い、ある者を恐れつつあわれみ、肉に汚されたる肌着をもちとうべし。

結 末

24 頌榮しょうえい 24 よく汝らを守りてつまずかざらしむることと、¹⁰ (わが主イエズス・キリストの降臨こうりんの時に) その光榮のみ前に汚れなく喜ばしく立たしむることとを得給う者、25 すなわち、わが主イエズス・キリストによりて、わが救い主にてまします唯一ゆいいつの神に、万世の以前においても今においても、また万世に至るまでも、光榮、威光いこう、能力、権能あり、アメン。

①ラテン訳では全うせられん。②あるいはイエズス、あるいは神。③同性の人の意。④ラテン訳では彼ら。⑤創世記4・8、知書10・3 ⑥ペトロ後書2・15、16 ⑦民数紀略16 ⑧ラテン訳では、おのが。⑨創世記5・21、24、ヘブレオ書11・5 ⑩ラテン訳では罪なからしむ。